

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602711	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成29年2月1日
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい		
所在地	(〒252-0203) 神奈川県相模原市中央区東淵野辺1-22-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和2年9月8日	評価結果 市町村受理日	令和2年11月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者を中心に考え、一人一人の体調や状況に合わせて、ご本人のペースで支援し、思いを感じ取れるよう努めています。
入居者様の誕生日には、個別支援として希望や意見を聞き、叶えられる様に支援して
ます。
また、地域とのお付き合いを大事にしています。自治会、近隣小学校、保育園との交
流を図り、中学校の体験学習、福祉高校の実習も行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和2年9月16日	評価機関 評価決定日	令和2年11月2日

※新型コロナウイルス感染予防の為、調査日を翌年度に延期しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 この事業所は、JR横浜線古淵駅から徒歩15分の畑も点在する閑静な住宅地にある。近くに小学生の通学路ともなる鎌倉道や公園もあり利用者にとっては散歩コースに事欠かない立地である。 【利用者の思いに寄り添うチームケアマネジメント】 新たに入居した利用者にはアセスメントを職員全員で行い、安心してホームでの暮らしを始めるためのアイデアを出し合う。カンファレンス前には「困りごとシート」を職員全員が提出し、利用者の課題を探るヒントとし、カンファレンスでの課題抽出につなげている。 【家族との信頼関係構築】 ホームの行事に家族参加を呼び掛け、顔馴染みの関係づくりを行っている。利用者それぞれの様子を掲載した「あじさいNEWS」を毎月発行し、家族より高評価を得ている。退去後の家族から雑巾を寄付されたりと双方向での良好な関係を維持している。 【法人の充実したバックアップ体制】 毎週1回看護師が派遣され勉強会講師やケアのサポートを行っている。介護支援専門員の資格を持つ法人管理職も利用者の対応や職員のフォローを行っている。また、職員育成への取組みも強化しており、ホーム長が講師を務め、リーダー、サブリーダーを育成する研修を行っている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り一丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り二丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：一期一会 職員は、理念を常に意識し、理念を基に日々入居者様のケアを行い、健やかで快適に過ごせるよう実践に努めている。	理念は、現ホーム長が就任時に職員誰もが理念の意味するところを答えられる点に重きを置いて策定した。入職時にホーム長が説明が行い、ミーティング時にも時折振り返りを行っている。尚、玄関、更衣室、面談室に掲示され、職員は常に理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り、近隣の小学校・保育園との交流を図っている。また、地域の方の傾聴ボランティアが月に2、3回、他にも月1回のボランティアがカラオケや踊りを披露している。現在はコロナ感染対応の為、中止しています。	嶽の内自治会に加入している。利用者の半数以上が近所の方なので顔見知りも多く、活発な交流が行われている。昨年の敬老の日のイベントでは保育園児が来所し楽しい時間を過ごし、ホームのイベントにはバンド演奏、ハーモニカ演奏のボランティアの参加もあった。ご近所より傾聴やカラオケのボランティアも来所している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の体験学習では毎年小学校の先生、小学校2年生とその父兄が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。また、中学校の体験学習や高校の研修施設となっており、利用者とは折り紙、歌、体操等を体験している。現在中止しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しており、自治会長や民生委員及び地域包括支援センターの職員、ご利用者様本人並びにご家族様にも参加して頂き、現在のサービス利用状況の報告を行い、サービス向上のために意見を伺っている。現在書面で対応中。	2019年度は偶数月に開催した。出席者は自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、そして時々利用者も出席している。ホームより運営状況の報告を行っている。尚、2020年度は書面開催としている。民生委員よりボランティアの紹介や利用希望者の紹介を頂くこともあり、ホーム運営に生かしている。	運営推進会議は定期的開催されていますが、議事録の作成が出来ていません。有意義な意見交換もありホーム運営にも役立っているため、今後は記録を残すことで、より一層ケアの質が向上することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。	外部評価報告書の提出や、生活保護受給者の相談などで相模原市福祉基盤課や中央生活支援課と関わりをもっている。担当者は定期的に来所し、ホームの全般的な運営状況について情報交換を行っている。グループホーム連絡会に加入しているが、現在は活動停止となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は防犯上常に施錠を行っている。身体拘束の研修は年2回ミーティングにて勉強会を実施している。日頃から月1回ケースカンファレンスで話し合いをしている。現在は書面で対応中。	現在、身体拘束に相当することはない。但し、以前不審者が2階まで侵入したことがあり、家族に説明、同意を得た上で玄関は終日施錠している。身体拘束委員会を毎月開催し、状況把握を行い、研修も年に2回実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やリーダーが日々、ご利用者様の表情や体調に注意を払い、変わりなく穏やかに過ごされていることを確認している。身体拘束委員会を定期的開催しスタッフに情報共有している。現在は書面で対応中。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護のご入居者様の後見人手続き等、市の担当者と支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事前に説明を行い、締結まで書類をお渡しし確認頂き、不明な点についてはご納得頂けるまで十分な説明を行った上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加時に発言が出来る様配慮している。介護計画書作成時に入居者や家族に意見・要望・苦情を吸い上げる様心掛けている。また、普段よりご家族様とは何でも言い合える環境と信頼関係を築ける様に努めている。	行事に家族の参加を呼び掛け、多数来所し、希望や意見を聞く機会となっている。また、家族に他のグループホームの管理者がおり、困りごとの意見交換を行ったこともある。新型コロナ禍以降は面談を禁止したので、電話連絡の頻度を上げ、家族との関係維持を図っている。10月よりTV会議システムを導入する。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見交換が行われている。また日頃から職員同士話しやすい環境作りを心掛けている。年に2回は個別面談を行って意見や提案を聞いている。	毎月第四金曜日に夜勤以外は全員参加でユニット会議を開催し、意見交換を行っている。最近では「連続した休暇が取得できるとよい」、「職員が不足している」との意見があり法人と相談の上、派遣社員を入れ、両方の課題を解決した。尚、個別面談を年2回開催し目標、振り返りを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては、管理者（施設長）、次長、部長が査定を行っている。その他労務管理も常に管理者（施設長）、次長が把握し、日頃から管理者は次長に職員の様子を伝え公平を期している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自年間目標を設定し、個別に面談を行っている。外部研修は参加する機会が少なかったが、職場内で研修する場を定期的に設けている。社外研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市内で行われている勉強会や、グループホーム管理者が集まり、様々な課題に対する意見交換を行っている。これらの事がグループホーム全体の向上に繋がると思いつから、積極的に奨励、応援している。現在は見合わせ中。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご本人様の意見や要望等を聞く機会を設けている。更に入居後は施設に早く馴染める様、職員からの声掛けやご本人の希望に耳を傾ける事に気を配り安心して生活して頂ける様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じてご家族の要望等を聞く機会を設けている。ご家族来訪時には普段の様子をお伝えしながら話しやすい雰囲気作りに努め家族との情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接等の相談時において、ご本人様及びご家族様の話を聞いた上で適切なサービスの選択が出来る様にし、必要に応じ他のサービスについての情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様を中心に考え、ご本人様の思いを感じ取れるよう努めている。ご入居者様から話し掛けられた時は他の仕事していても手を止め耳を傾けて話を聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時は入居者様とご家族様がゆっくりと話が出来るように、ご入居者様の居室やフロアで一緒に過ごせる様にしている。また、職員が普段の様子を説明し情報共有に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいのご家族様が頻繁に面会に来られている。面会やご家族との外出は自由にして頂いている。また昔からのご友人も来訪される事もある。現在面会制限中。	ボランティアとは顔馴染みの関係となっている。新型コロナ禍以前は買い物、コンサート、外食、自宅、理美容等の外出もしていた。裁縫、エレクトーン等の趣味を継続している利用者もいるが、最近が高齢のため機会が減っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様同士が会話をしやすい様に食席についても配慮している。レクリエーションや行事等を通じて、ユニット間でも交流が図れるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者に対しても、ご入居者様またはご家族様から相談等があった場合は、必要な情報提供や相談に応じている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様の意向や希望をケアプランに載せ、それに則って生活支援を行っている。困難な場合はご家族様に相談し一緒に検討している。	「24時間生活変化シート」により利用者の感情の変化を把握している。必要に応じてケースカンファレンスを開催し、職員で意見交換を行い対応を変更することがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者様やご家族様に昔の情報をお聞きし、ケアプランに組み込み、少しでも馴染みのある生活が送れる様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご入居者様の日々の様子をケース記録、24時間シート及び業務日報に記入し職員同士で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者がご入居者様毎に状態や変化をまとめ、毎月のカンファレンス時にて職員間で話し合いをして実践し評価している。現在個別及び書面で実施。	センター方式を活用し、ケアプランを作成し、6～9か月間で見直しを行うことにしている。居室担当者制を導入し、利用者毎のカンファレンス開催時期も決めている。変化のある場合はケースカンファレンスを開催し対応している。日々の介護内容は「24時間生活変化シート」に記録している。	介護記録となる「24時間生活変化シート」にケアプランのサービス内容との紐付けを徹底し、一目で提供すべきサービスが実施されていることが確認出来ることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の日々の様子や変化等、ケース記録・業務日報・連絡ノートに記入し、職員同士で共有し、必要に応じその場で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護ベッド・車椅子は、施設内の用具を無償で使用して貰っている。要望に応じて他業者からの購入のお手伝いもしている。また、通院のサポートもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベント等への参加を支援している。現在はコロナ感染対応の為、中止しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を月2回受診している。他にかかりつけ医がいる場合は、医師同士の連携が図れる様に配慮し、適切な医療が受けられるように援助を行っている。	精神科のかかりつけ医を継続している利用者があり、基本的には家族対応となっている。その際はホームでの利用者の様子を記した「お手紙」を用意し医師に渡している。歯科医は2院あり、それぞれ月2回往診している。10月より眼科往診が開始され、訪問看護師は24時間オンコール体制となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問にて全員の健康チェックを受けると共に、日常の関わりの中で気付いた事等の相談をし、アドバイスを貰ったり必要によってかかりつけ医と連携を取って貰っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には介護サマリーを提供し、医師からご家族様への説明時には立ち会う等、病院側との情報交換にも努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明を行っている。ターミナルケアについては医師・ご家族様・職員と話し合いの場を設けている。	入所時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、別途、延命医療行為の内容を説明した上で「急変時および終末期の延命医療行為に関する意思確認書」にて意向の確認を行い署名捺印を頂いている。医師より終末期と判断された際は、医師、家族、管理者で話し合いを行う。あくまでも利用者本人の意向を重視する方針としている。尚、2019年度は2名の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法等の救急対応についての研修を行っている。事故発生時の救急対応についてもマニュアルにて全職員が理解している。研修は書面対応。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。消防署の方も参加して頂き、助言を受けている。また、災害時には近隣の職員への連絡が取れるような体制を取っている。	昨年10月に消防署立ち会いの上、夜間想定にて防災訓練を実施し、今年4月にも日中想定で訓練を実施した。利用者をユニット出口の踊り場まで避難させる訓練を行った。緊急連絡網を整備し、近隣職員がすぐに来所出来るようにしている。非常食の備蓄は主食以外も準備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人話し掛ける時は敬語や丁寧な言葉で話す様になっている。認知症であるご入居者様には安心して過ごして頂けるような声掛けをしている。	言葉遣いの向上に向け、接遇研修を実施した。契約書等の重要書類は金庫に、個人情報を含む書類は施錠出来る書棚で保管している。「24時間生活変化シート」への記入は時間を設け、利用者から離れた場所で行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望や意見等を聞いて叶えられる様支援している。希望が言えない方でも選択肢を与えて自己決定し易い様働きかけている。今年度は外出は中止。施設内で出来るよう検討。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な声掛けはせず、一人一人の体調や状況に合わせてご本人のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人が、その人らしいオシャレや身なりになれるよう気を配り支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人好みの味を把握し美味しく食べて頂ける様調理に工夫している。季節や行事の物を取り入れ目で楽しんで頂いたり、嫌いな物でも食べれる工夫、個別で買い物購入をしている。	昼食は献立付きの食材を職員が調理し、朝食、夕食は調理済み食品としている。月に2回「出前の日」を設け利用者は好きなものを注文している。手作りパンの移動販売もあり、楽しみの一つである。2か月に1度「お好みメニューの日」があり最近では餃子を作った。訪問時には、率先して配膳をする利用者の元気な様子を目にした。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食時にチェックしている。水分量もその都度量っている。ご入居者様に合った量を提供し、苦手な物は工夫して調理し、バランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず口腔ケアを行っている。ご入居者様の状態を見て歯間ブラシやスポンジを使用している。舌の汚れや歯茎の腫れ等も異変がないかチェックし、異変があれば訪問歯科に報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、尿意や便意のない方は声掛けをして誘導している。二人対応でトイレでの排泄も対応している。パットの大きさ、量にも気をつけている。	排泄チェック表をもとに定時誘導している。夜間は吸収率に優れたおむつやパットの利用で睡眠優先としている。ポータブルトイレの利用者は各ユニット1名となっている。業者とも連携し、常に使い心地の良いおむつを使用するように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に排便の記録を記入している。一人ひとりの排便パターンを考慮し、コントロールしている。毎日ラジオ体操等の運動やヨーグルト、野菜ジュースも摂取している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週二回の入浴を提供している。ご本人様の様子を見て午前、午後等分ける様になっている。立位や歩行が難しい方でも二人介助にて楽しんで頂いている。また、自立で入る方は好きな時に入ってもらっている。	基本は週に2回の入浴だが、自立の方は好きな時に入浴し、その時は定期的な声掛けで安全を確認している。お湯はかけ流しとしている。バスタイムを楽しむために柚子湯、菖蒲湯の他、お好みの入浴剤を使う利用者や音楽を聴きながら入浴する利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の意思を尊重し、眠たいと訴えがあった時や、フロアで傾眠している時は居室へ誘導し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックとの連携をしっかりと取り、内服薬等で分からない事があった際は確認をし、間違えなく服薬出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯干し、洗濯たみ等、ご入居者様が出来る事は行って頂いている。また、趣味の箱折や、音楽等を楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や個別支援にてご入居者様の希望を聞き、計画策定・実施している。毎年ご入居者様の希望を参考にしながら行事計画を策定している。現在、外出行事は中止中。	新型コロナ禍以前は、鎌倉道、公園に散歩に出掛け、桜のシーズンには近くの小学校まで花見に出掛けた。最近では、ホームの長い廊下でのウォーキングや階段昇降で運動不足を補い、毎週2日レクリエーションの日を決めて歌やゲームで気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は所持しない事になっており、ご本人様・ご家族様にもお伝えしている。希望がある際は都度相談し臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿ってご家族様と連携を取って対応している。携帯電話で、やり取りしている利用者様もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日フロア内の清掃を行っている。空調等も温度計・湿度計を見ながら快適に過ごせる様になっている。また、季節感が出るように壁紙作りやカレンダー作りをしている。	ワックス掛けされた長い廊下はピカピカに輝いており、昨年入れ替えが完了したテーブルや椅子で利用者はくつろいでいた。利用者と職員とで「月見」の壁紙を作り季節感を楽しんでいた。また、布で作られた大きなカレンダーも掲示されていた。年始には「あじさい神社」がリビングに準備され、利用者全員が不公平感なく初詣出来るように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う・気の合わないご入居者様もいるので、職員で話し合っ、皆様が快適に過ごせるようにフロアの席は決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者様が安心して生活出来る様にご本人様・ご家族様と相談した上で居室のレイアウト変更を行っている。	照明器具、エアコン、クローゼット、温湿度計が備え付けとなっており、ベッドは法人から無償貸与も可能となっている。利用者が部屋を間違えないように、写真をドアに貼る工夫をしている方もいる。清掃は職員が行うが、手伝いをする利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等での案内や表示は大きく分かりやすい文字で掲示している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 相模原ケアハートガーデン
グループホームあじさい

作成日 令和2年10月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	26	センター方式介護記録（24時間生活変化シート）記入内容が、ケアプランサービス内容との紐づけが少ない。	記録が一目で提供サービスが実施されていることが確認できる。	ケアプランのサービス内容の課題を見直し、居室担当者がマーカーで重要なプラン内容に印をつけサービス実施し記録をつける。	12ヶ月
2	13	外部研修、内部研修、ミーティングがコロナの関係で書面になり、情報が周知されず、チームワークがかけてしまった。	各階のユニットのチームワークが向上、質の良いケアが出来る。報連相ができて情報共有ができる。	ユニットリーダー、サブリーダーを育成する。日々の申し送りを情報共有する。三密に注意しユニット会議を開催する。	12ヶ月
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。